



北米ホーリネス教団  
オレンジ郡  
キリスト教会  
「週報」

2012年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am  
 コヒーアワ : 日曜日 10:45~11:15am  
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm  
 みふみ会 : 水曜日 10am  
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm  
 早天祈禱会 : 土曜日 7am  
 家庭集会 : 各地区に2箇所  
 牧 師 : 杉村 幸 (日本語部)  
           益田デーロ (英語部)  
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)  
           (714) 527-1456 (牧師館)  
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com  
 教会ホームページ : www.occc.org  
 教会所在地 : 4872 Bishop St.  
                   Cypress, CA 90630

石 叫 口

◎石叫 ■ 「真の礼拝者のあり方」

十人のライ病人(ルカ十七)の記事を読むと、そこに真の礼拝者の姿を見る。それを今回は語ろう。ヨルダン川東岸のある町でのこと、らい病患者が声を張り上げて「イエス様、私たちを憐れんでください」と叫んでいた。そこで主は「祭司のところに行つて、からだを見せなさい」と言われた。祭司に見せることは律法が命じるところであり、それで社会復帰ができるからだった。九人のユダヤ人は祭司の居るエルサレムまで、一人のサマリヤ人はゲリジム山まで行く必要があったが、それには数日を要した。だが、途中で彼らは癒された。結局その癒しを感謝して主の下に帰ってきたのは、サマリヤ人だけだった。癒されるまでの彼らの熱心な嘆願はどっかに行つてしまひ、癒されたら、もうそれはどうでも良くなつてしまったのだ。しかし、このサマリヤ人、帰るといつても先の居た場所に戻つても主はいない。伝道のために絶えず移動するからだ。しかし、彼は日時を惜しまず、主に出会うまで熱心に捜し続けたのだった。それはひとえに感謝と賛美を捧げるためであった。それが真の礼拝者の姿である。

シリアのナアマン將軍(列王下五)も、らい病であった。彼はイスラエルに預言者が居ると知つて、エリシャのもとに行つた。エリシャはカルメル山に居た。そこは地中海沿岸に位置する。將軍がエリシャのもとにゆくと、「ヨルダン川で七度身を洗いなさい、そうすれば清くなる」と使いを通して言われた。そこで將軍は怒つて言つた、「わたしは、彼がきつとわたしのものに出てきて立ち、その神の名、主の名を呼んで、その箇所の上に手を動かして、らい病を癒すのだからと思つた」。でも、部下からたしなめられて仕方なく出かけた。でもそれはいま来た道を二日間も戻ることを意味する。だが、川に身を浸すと、すっかり直つて幼な子のようになつた。そこで彼は癒しは神のみ業だと知つて神に感謝を捧げ、礼拝をするために同じ道をいとわずにカルメルに戻つたのだ。

らい病が癒されたら、誰しもがはやく家族のもとに帰つたり、友人に会いたいと思うのではなからうか。でも、このサマリヤ人やナアマン將軍は何はさて置いても、またどんな犠牲を払つても神への感謝を捧げたいと思つたのだ。主は私たちを罪から救い出すために、ご自分の命を十字架に捧げて下さつた。その救いこそが、本来私たちが求め続け、叫び続けねばならない魂の痛みであつたのだ。その主の犠牲に対して、何をもつて感謝を捧げたら良いのであろう。それは私たちも霊とまことをもつて心から主を礼拝することではなからうか。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は一九七七年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は一九二一年に創立され、現在は日英両語合わせますと二千名を越える会員になります。

私たちの教会は一八世紀に、英国で始まつたジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、三世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白といたします。

